

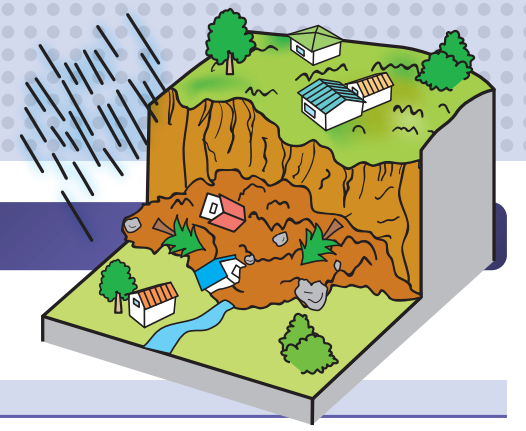
防災・減災の要となる「自助」「共助」を忘れずに!

実際に大規模災害が発生した場合、災害を最小限にとどめるには、自分のことは自分で守る「自助」が防災の基本になります。非常持出品の準備や家屋の耐震改修、家具の固定など、身のまわりの安全対策を行いましょう。また、市や県(警察含む)や自衛隊、防災機関などが全力で災害救助活動「公助」を行います。大規模災害が発生した場合は活動に限界がでてきます。こうした場合には、何よりも地域の皆様の相互協力「共助」が必要です。いざというときに、地域住民で協力してすばやく行動できるような体制づくりをすすめましょう。

目次

市長挨拶		かすみがうら市防災マップ 6	22 ・ 23
防災・減災の要となる「自助」「共助」を忘れずに!		かすみがうら市防災マップ 7	24 ・ 25
目次		かすみがうら市防災マップ 8	26 ・ 27
避難に関する情報	1	かすみがうら市防災マップ 9	28 ・ 29
地震対策	2	かすみがうら市防災マップ 10	30 ・ 31
火災対策	3	かすみがうら市防災マップ 11	32 ・ 33
風水害対策	4 ～ 7	かすみがうら市防災マップ 12	34 ・ 35
地域における防災組織	8 ・ 9	避難所等一覧	36
かすみがうら市全域図	10 ・ 11	避難所生活での心得	37
かすみがうら市防災マップ 1	12 ・ 13	備蓄品および非常持ち出し品	37
かすみがうら市防災マップ 2	14 ・ 15	わが家の防災対策	38
かすみがうら市防災マップ 3	16 ・ 17	わが家の防災メモ	39
かすみがうら市防災マップ 4	18 ・ 19	マイ・タイムライン	40
かすみがうら市防災マップ 5	20 ・ 21	市の防災情報	41 ・ 裏表紙

避難に関する情報



避難に関する情報の確認

市からの避難に関する情報は、避難する時期を判断するために重要な情報です。情報の内容や入手方法を事前に確認しておきましょう。

市から伝達される避難に関する情報の種類

災害の危険性 高	避難準備・高齢者等避難開始	●避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。 ●その他の人は、避難の準備を整えましょう。
	避難勧告	●速やかに避難場所へ避難をしましょう。●外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
	避難指示(緊急)	●まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。●外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

情報の入手方法

市からは避難に関する情報が様々な方法で発信されます(防災行政無線・市公式ホームページ・市公式アプリ・市メールマガジンなど)。事前に伝達方法を確認しておきましょう。

特別警報

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。

特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

特別警報の発表基準

現象の種類	基 準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により雪が伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

避難のポイント

危険を感じた場合は、市からの避難情報を待たずに避難しましょう。

外出が危険なときは、家の2階などの少しでも安全な場所に移動する。	夜間の避難は危険。可能な限り明るいうちに避難する。	いざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておく。	非常持ち出し品は必要最低限にとどめ、背負って両手が自由に動かせるようにする。
運動靴を履いて避難する。長靴は水が入って歩きにくく危険。はだしは厳禁。	道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(ふたが外れている)が分かりにくく危険。ふだん通っている道でも真ん中を慎重に歩く。	流水や冠水の中で歩ける浸水はひざぐらい(男性は70cm、女性は50cm程度)が目安。それ以上なら無理をせず、高いところで救助を待つ。	
古くなった橋などは渡らないようにする。	垂れ下がった電線に触れない、近寄らない。	田んぼや畑、河川の見回りは避ける。	先導者は、くぼみや溝を確かめるために、長い棒をつえにしながら歩く。
必ず2人以上で避難する。道路冠水時は、ロープでつないで避難する。	避難前に、ガスの元栓やブレーカーを切り、火の始末や戸締まりをする。	原則として徒歩で避難する。特に地震時では道路が被害を受け危険。	隣近所に声をかけ、集団で避難する。病人や歩行困難な人を背負うなどして地域で助け合う。